

履修科目調査について

九州大学の全学教育（全学共通教育）においては、初年次学生の高校での科目履修歴に応じて一部の基礎科学科目の授業クラスの編成を行ってきました。当初は、学生が授業クラスを選択して履修していました。しかし、到達目標を同じくする授業（同一名称の授業）間での選択ですから、高校では未履修だったとして、授業クラスを選択する学生が多数いました。そこで、内申書を参照して、授業クラスを割り振ることにしました。ところが、内申書の記載においては、履修したことになっているのですが、「実際には履修していないから」と、授業クラスの変更を申し出る学生が多数いました。

そこで、平成 13 年度に、入学手続き書類と一緒に、高校での履修科目調査用紙を配布して、学生本人が申し出る履修歴を授業クラス割り振りの参照資料とすることにしました。授業クラス編成の資料になるということで、この調査用紙は、毎年度 100%に近い提出率となっています。

内申書記載と本人申し出のどちらに基づいて授業クラスの編成を行うかを検討するために、平成 13 年度と平成 14 年度は、両方を照らし合わせました。データを（コンピュータで）対応づけようとしたのですが、同じ学生の履修歴と見なされず、対応づけ不可となり、手作業で目視確認を必要とするケースが頻出しました。特に、理科に関しては複雑でした。例えば、「理科特別演習」という科目名称で、その内容が化学の入試問題を解くことに限定されたものであったというように、科目名称から履修内容を推定できない科目が数多くありました。結局、平成 14 年度から、学生が履修科目調査用紙に記載したことに基づいて履修する授業クラスを割り振ることにしました。

時期を同じくして、「高校で履修はしたけど、試験が終わったら、何を学習したかはすっかり忘れてしまった」と学生が主張するようになりました。この言い分は、例えば、「物理とは関係のない専門を学ぶつもりなのに、なぜ、その場合も力学の授業を受けなければいけないのですか？」という疑問と根っこが同じに思えます。大学入試が終わったら、学習したことを忘れるとしても、入試科目に的を絞って学習している状況があるので、平成 16 年度からは、高校での履修科目に基づくのではなく、センター試験と個別試験の受験科目を、履修の実態と見なして授業クラスを割り振ることになりました。

今後、数年かけて、高校での履修科目（履修・未履修）と、九州大学の全学教育科目の授業の成績評価との関係を検討する予定です。

（文責 長野剛：高等教育開発推進センター）